

二人で記念撮影をする(カップリングショット)

一画面を2つに分けて2回撮影し、その後自動合成して1枚の画像にする機能です。他の人に撮影を頼むことができないときでも、全員揃って記念撮影できます。この機能はベストショットモード(87ページ)の中にあります。

- 1回目の撮影
撮影者以外を撮影する。



- 2回目の撮影
背景の重なり具合を確認しながら撮影者のみを撮影する。



- 合成



1. 【モードダイヤル】を“BS”に合わせ、【SET】を押します。
2. 【◀】【▶】で“カップリングショット”のシーンを選び、【SET】を押します。

3. 最初に【液晶モニター】で【フォーカスフレーム】を左側部分の被写体に合わせます。



【フォーカスフレーム】

- カップリングショットでは、“AFエリア”(64ページ)が自動的に“スポット”になります。

4. 【シャッター】を押して、左側部分を撮影します。

- この撮影で下記の情報が固定されます。
フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ

5. 次に【液晶モニター】上で半透明で表示されている左側部分と、現在の背景が正しく重なるようにフレームを合わせます。

- 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作3に戻ることができます。



半透明の画像

6. 【シャッター】を押して、右側部分を撮影します。

重要! • カップリングショットでは、撮影時に内蔵メモリーまたはメモリーカードのどちらかを使用している方のメモリーを一時的に使用します。メモリーの容量が残り少ないと、撮影中にエラー表示が出ることがあります。その場合は不要な画像を消去してから再度撮影してください。

好みの構図で記念撮影をする(プリショット)

プリショット機能は人に撮影を依頼するとき便利な機能です。この機能では一度の撮影で2回の撮影を行います。1回目の撮影で撮影画像を半透明の状態【液晶モニター】上に表示し、2回目では表示されている半透明の画像を目安に最終的な撮影を行います。2回目に撮影した画像が記録されます。この機能はベストショットモード(87ページ)の中にあります。

- 好みの構図を自分で撮影



- 構図に合わせて他の人に撮影してもらう



- 2回目だけの画像が記録される



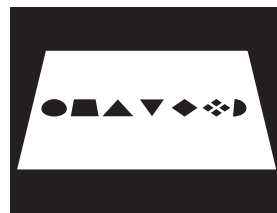
1. 【モードダイヤル】を“BS”に合わせ、【SET】を押します。
2. 【◀】【▶】で“プリショット”のシーンを選び、【SET】を押します。
3. 【シャッター】を押して、最初に仮撮影を行います。
 - この操作で撮影した画像は操作4で半透明で表示されますが、最終的にはカメラに保存されません。
 - この撮影で下記の情報が固定されます。
フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ
4. 次に他の人にカメラを渡して、【液晶モニター】上で半透明で表示されている背景と、現在の背景が正しく重なるように合わせてもらいます。
 - 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作3に戻ることができます。
5. 【シャッター】を押して、撮影してもらいます
 - この操作で撮影した画像がカメラに保存されます。



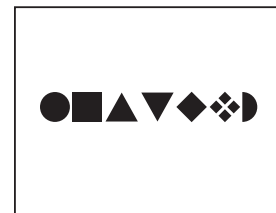
半透明の画像

名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット機能)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットでは、斜めから撮影した画像を自動的に正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。



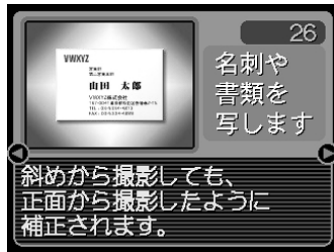
補正処理前



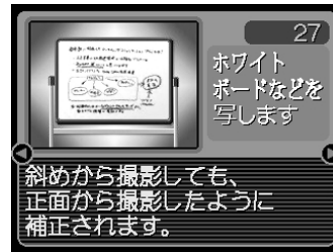
補正処理後

■ ビジネスショット用シーン

- 名刺や書類を写します



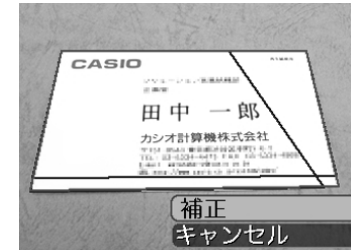
- ホワイトボードなどを写します



- 重要!**
- 被写体が【液晶モニター】に収まるような構図で撮影してください。被写体が【液晶モニター】からはみ出すと認識できません。
 - 被写体と背景が同色の場合、認識できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
- 参考**
- 名刺や書類の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は台形歪みが生じた画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

ビジネスショット機能で撮影する

1. 【モードダイヤル】を“**BS**”に合わせ、【SET】を押します。
2. 【◀】【▶】でビジネスショット用のシーンを選び、【SET】を押します。
3. 撮影します
 - 補正確認画面が表示されます。ただし、補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(205ページ)。その後、撮影した元画像を保存します。
4. 【◀】【▶】で補正候補を選びます。



5. 【▲】【▼】で“補正”を選び、
【SET】を押します。

- “キャンセル”を選ぶと、補正せずに撮影した元の画像を保存します。



- 重要!** ● ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても1600×1200pixelsの画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が1600×1200pixelsよりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

動画を撮影する(ムービーモード)

メモリー容量いっぱいまで音声付き動画を撮影することができます。

- ファイル形式：AVI形式
AVI形式は、Open DML グループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。
- 画像サイズ：320×240pixels
- 動画ファイルサイズ：約300KB/秒
- 撮影可能なムービーの時間
 - 一度に撮影可能な最長時間：メモリー容量による
 - 撮影可能なトータル時間：
内蔵メモリーで最長約29秒、64MBのSDメモリーカードで最長約3分20秒

- 参考** ● ムービーモードで撮影したファイルは、Windows Media Playerを使用して、パソコン上で再生することもできます。

1. 【モードダイヤル】を“”に合わせます。



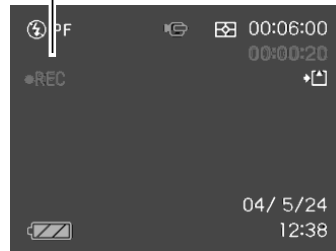
残り撮影時間

撮影時間

2. 撮影する被写体にカメラを向け、【シャッター】を押します。

- 残りのメモリーいっぱい、動画撮影が続きます。
- 動画撮影中は【液晶モニター】に“残り撮影時間”と“撮影時間”を表示します。
- ムービーモードでは、モードメモリ(108ページ)の“フォーカス方式”の設定にかかわらず、フォーカスモードが自動的にパンフォーカス(67ページ)になります。撮影前であれば、他のフォーカスモードに切り替えることができます。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【シャッター】を押す前であれば、光学ズームは使用できます。


ムービー録画中

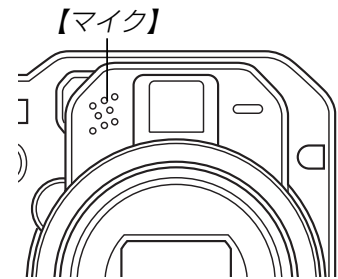


3. 動画撮影を途中で終了させたいときは、もう一度【シャッター】を押してください。



- 動画撮影が終了したら、動画ファイルがカメラのメモリーに保存されます。

重要!

- フラッシュは発光しません。
- 本機では音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。
 - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
 - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が入ることがあります。
 - 音声はモノラルで録音されます。
 - フォーカスモード(62ページ)をオートフォーカスモードかマクロモード()にすると、自動的にピント調整を行います。その際に「カタカタ」というレンズ移動音も一緒に収録されてしまいます。ピント調整音が気になる場合は、パンフォーカスのまま撮影するか、あらかじめマニュアルフォーカスモード(MF)でピントを調整したうえで、撮影することをおすすめします。



フォーカスモードをパンフォーカスモード(PF)、マニュアルフォーカスモード(MF)、無限遠モード(∞)にすると「カタカタ」というレンズ移動音は入りません。ただし、マニュアルフォーカスモードでは撮影中のピント調整ができなくなりますので、撮影前にピントを合わせてください。

- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、とが点滅します。

音声を記録する

画像に音声を加えて記録する (音声付き静止画撮影モード)

画像撮影後に、音声を録音することができます。

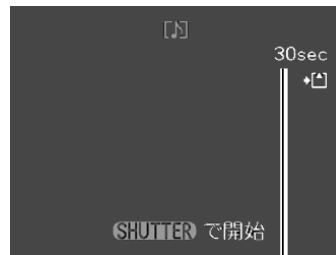
- 画像形式：JPEG形式
画像を効率よく圧縮するための画像フォーマットです。
拡張子は“.JPG”となります。
- 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。
拡張子は“.WAV”となります。
- 録音時間：1画像につき最長約30秒間
- 音声ファイルサイズ：
約120KB(約4KB/秒で30秒間録音時)

参考 ● 音声付き静止画撮影モードで録音したファイルは、Windows Media Playerを使用して、パソコン上で再生することもできます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“音声付静止画”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押します。
 - 音声付き静止画撮影モードになります。
 - “切”を選ぶと、通常の静止画撮影モードになります。

4. 【シャッター】を押して、画像を撮影します。

- 画像を撮影した後、音声録音スタンバイ状態になります(今、撮影した画像が表示され、【🔊】が表示されます)。
- 音声録音スタンバイ状態で【MENU】を押すと、音声録音を解除することができます。



録音可能時間

5. 【シャッター】を押して、音声を録音します。
 - 録音中は緑の【動作確認用ランプ】が点滅します。
 - 【DISP】を押して【液晶モニター】をオフに設定しても、音声録音時には【液晶モニター】は点灯します。

6. 【シャッター】を押すか約30秒経つと、録音を終了します。


- 重要!** • 音声付き静止画撮影モードで撮影できないのは、次の通りです。
セルフタイマー撮影の“×3”(トリプルセルフタイマー)、連写、オートブラケティング撮影


音声のみ記録する(ボイスレコードモード)

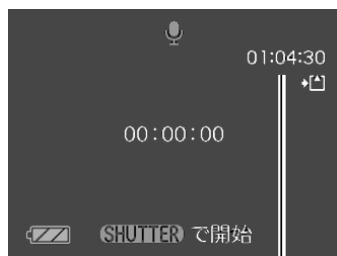
音声のみを録音することができます。

- 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。拡張子は“.WAV”となります。
- 録音時間：内蔵メモリー使用時で最長約38分
- 音声ファイルサイズ：
約120KB(約4KB/秒で30秒間録音時)

- 参考** • ボイスレコードモードで録音したファイルは、Windows Media Playerを使用して、パソコン上で再生することもできます。

1. 【モードダイヤル】を“”に合わせます。

- ボイスレコードモードになり、が表示されます。



録音可能時間

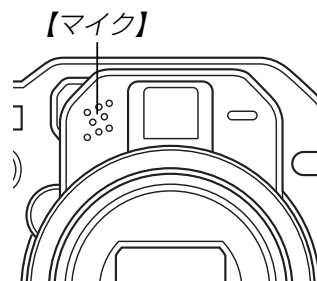
2. 【シャッター】を押して、音声を録音します。

- 録音中は【液晶モニター】に“録音時間”を表示します。また、緑の【動作確認用ランプ】が点滅します。
- 録音中に【DISP】を押すと、【液晶モニター】が消灯します。
- 録音中に【SET】を押すと、録音位置を記憶したマークを付けることができます。

3. 【シャッター】を押すかメモリーがいっぱいになるか、または電池が消耗すると録音を終了し、音声を記録します。

■ 音声記録時のご注意

- カメラ前面部にある【マイク】を必ず対象に向けてください。
- 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。



- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 録音中に【電源ボタン】を押すか【モードダイヤル】を回すと、録音は中止となり、その時点までの音声が記録されます。
- 撮影済みの静止画像に、後から音声を追加(アフターレコーディング機能)することができます。また、録音済みの音声を記録し直すこともできます(132ページ)。

ヒストグラムを活用する

【DISP】を押して【液晶モニター】上にヒストグラムを表示させることにより、露出(光の量や明るさ)をチェックしながら撮影することができます。PLAYモードでは、撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。



ヒストグラム

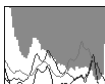
- ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために十分な画像のディテールが画像のシャドウ(左側)、中間調(中央部分)、ハイライト(右側)に含まれているかどうかを確認することができます。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、EVシフト(露出補正)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。
- R(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されますので、色ごとに「赤成分がオーバー」「青成分がアンダー」のように各色の分布状況も直感的に把握することができます。

参考 • キーカスタマイズ機能で“EVシフト”の切り替えを【◀】【▶】に割り当てると(108ページ)、ヒストグラムを確認しながら【◀】【▶】でEVシフトを行って撮影することができます(68ページ)。

撮影する(応用編)

- ヒストグラムが左の方に寄っている場合は、暗いピクセルが多いことを示しています。

全体的に暗い画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。



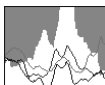
- ヒストグラムが右の方に寄っている場合は、明るいピクセルが多いことを示しています。

全体的に明るい画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。



- ヒストグラムが中央に寄っている場合、明るいピクセルから暗いピクセルまで適度に分布していることを示しています。

全体的に適度な明るさの画像はこのようなヒストグラムになります。



- 重要!**
- 前記のヒストグラムはあくまでも例であり、被写体によってはヒストグラムの形が例のようにならない場合があります。
 - 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
 - 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
 - フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。
 - カップリングショット撮影時(90ページ)、プリショット撮影時(91ページ)は、ヒストグラムは表示されません。
 - RGB(色成分)ヒストグラムは、静止画にのみ表示されます。ムービーモードでは、輝度成分のヒストグラムのみが表示されます。

各種機能を設定する

RECモードにおいて、下記の機能を設定することができます。

- ISO感度
- オートフォーカス方式(AF方式)
- 測光方式
- 色彩効果(フィルター)
- シャープネス
- 彩度
- コントラスト
- グリッド表示のオン/オフ
- 撮影レビュー
- アイコンガイド
- 左右キー設定
- 各種設定の記憶(モードメモリ)
- 各種設定のリセット

- 参考** • 上記以外に、次の機能も変更できます。操作方法については各ページをご覧ください。
- サイズ(59ページ)
 - 画質(60ページ)
 - ホワイトバランス(70ページ)
 - AFエリア(64ページ)
 - 音声付静止画(96ページ)
 - フラッシュ光量(56ページ)
 - フラッシュアシスト(56ページ)
 - デジタルズーム(52ページ)

ISO感度を変える

暗い場所で撮影するときやシャッター速度を速くしたいとき、ISO感度を変更できます。使用目的に応じてISO感度を設定してください。

- ISO感度とは、光に対する感度をISO(写真フィルムの感度単位)の数値で表したものです。数値が大きいほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“ISO 感度”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

	オート	: 撮影条件により自動調整します。
感度が低い	ISO 80	: ISO 80相当
	ISO 160	: ISO 160相当
↑	ISO 320	: ISO 320相当
↓	ISO 640	: ISO 640相当
感度が高い		

- 重要!**
- 同じ撮影条件下でISO感度を上げるとシャッター速度は早くなりますが、画像は多少ざらついた感じ(ノイズが増加した画像)になりますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を下げてください。
 - ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。
- 参考**
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】でISO感度を変更できるように切り替えられます(108ページ)。

オートフォーカス方式(AF方式)を変える

オートフォーカス方法を変更できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“AF方式”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

ハイブリッド： 位相差センサー方式とコントラスト方式を併用した方式で、オートフォーカスを行います。通常はハイブリッドに設定してお使いください。

コンティニアス： 常に測距をし、レンズ移動によるピント合わせをし続けることにより、高速なオートフォーカスを行います。

コントラスト： コントラスト方式でオートフォーカスを行うことにより、【位相差センサー】が隠れてしまっても、オートフォーカスできるようにします。

- 重要!**
- オートフォーカス方式を“コンティニアス”に切り替えるとき、常時レンズが動き続けるため、電池寿命は“ハイブリッド”よりも短くなります。
 - オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)(64ページ)を“フリー”に設定すると、オートフォーカス方式を“ハイブリッド”や“コンティニアス”に設定しても、コントラスト方式で撮影します。
 - ワイドコンバーター／テレコンバーター／クローズアップレンズなどの外部レンズを装着して撮影するときは、必ずオートフォーカス方式を“コントラスト”に設定してください(117ページ)。なお、オートフォーカス方式を“コントラスト”に設定すると、オートフォーカス動作は“ハイブリッド”よりも遅くなります。

測光方式を変える

測光方式を変更できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“測光方式”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

マルチ(マルチパターン) :

画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。さまざまなシーンで失露の少ない露出が得られます。



中央重点 :

中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。



スポット :

センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。



- 重要!**
- “マルチ”設定時にEVシフト(68ページ)を行うと、測光方式が自動的に“中央重点”に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すと、元の測光方式に戻ります。

色を変える(フィルター)

フィルター機能を使用して、撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“フィルター”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。
切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫


参考 • フィルター機能を使うと、色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。

シャープネスを変える

撮影される画像の鮮鋭度を設定できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“シャープネス”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2 : 鮮鋭度が高い
+1
0
-1
-2 : 鮮鋭度が低い



彩度を変える

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“彩度”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2： 色の鮮やかさが高い

+1

0

-1

-2： 色の鮮やかさが低い



コントラストを変える

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“コントラスト”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2： 明暗がクッキリする

+1

0

-1

-2： 明暗が平坦になる



グリッドを表示する

撮影時、【液晶モニター】に方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。



1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“グリッド表示”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。
入：グリッドを表示します。
切：グリッドは表示しません。

撮影した画像を確認する(撮影レビュー)

撮影した直後に【液晶モニター】で撮影した画像を確認することができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“撮影レビュー”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。
入：撮影直後に【液晶モニター】に撮影した画像が約1秒間表示されます。
切：撮影した画像は表示されません。

画面上のアイコンの意味を確認する (アイコンガイド機能)

RECモード時に【液晶モニター】上でアイコンの意味を確認しながら操作することができます(24ページ)。

- アイコンの意味を確認できる機能は、次の通りです。
REC(撮影)モード、フラッシュモード、フォーカスモード、ホワイトバランス、セルフタイマー/リモコンモード、測光方式
ただし、ホワイトバランスと測光方式のアイコンの意味は、キーカスタマイズ機能(108 ページ)を“ホワイトバランス”または“測光方式”に設定したときにのみ表示されます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“アイコンガイド”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：各種撮影機能を切り替えたとき、切り替えた機能を示すアイコンの近くに、アイコンの意味が表示されます。
切：アイコンの意味を表示しません。

- 重要!** • 次のアイコンは切り替え操作したときにだけアイコンとその意味が表示され、しばらくすると表示は消えます。
- フラッシュモードの“**FA** フラッシュオート”(54ページ)
 - フォーカスモードの“**AF** オートフォーカス”(62ページ)
 - ホワイトバランスの“**AWB** オートWB”(70ページ)

左右キーに機能を割り当てる(キーカスタマイズ)

【◀】【▶】に、5つの中のどれか1つの機能の操作を割り当てることにより、操作しやすくすることができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“左右キー設定”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。
 - 【◀】【▶】で設定した機能が操作できるようになります。

EVシフト	：露出値(EV値)が補正できます(68ページ)。
ホワイトバランス	：ホワイトバランスが変更できます(70ページ)。
ISO感度	：ISO感度が変更できます(101ページ)。
測光方式	：測光方式が変更できます(103ページ)。
AFエリア	：オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)が変更できます(64ページ)。
切	：【◀】【▶】に操作を割り当てません。

参考 ● 初期設定は“EVシフト”の操作となります。

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入/切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

●モードメモリで設定できる機能


フラッシュ、フォーカス方式、ホワイトバランス、ISO感度、AFエリア、測光方式、セルフタイマー、連写/BKT、フラッシュ光量、デジタルズーム、MF位置、ズーム位置

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“モードメモリ”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で設定したい機能を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。
 - 入：電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
 - 切：電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	入	切
フラッシュ	最後のモード	オート
フォーカス方式*1		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
AFエリア		スポット
測光方式		マルチ
セルフタイマー		切
連写/BKT		1枚撮影
フラッシュ光量		0
デジタルズーム		入
MF位置		MFに切り替える前の位置
ズーム位置*2		ワイド端

※1 ムービーモードでは設定を記憶することができません。自動的にPF(パンフォーカス)に戻ります。

※2 ズーム位置では光学ズームの位置のみ記憶します。

- 重要!**
- ベストショットモードでは、シーンの選択をしたり、電源のオン/オフを行うと、モードメモリが入/切のどちらに設定されていても、撮影設定(“ズーム位置”以外)は各シーンの初期設定値となります。
 - ムービーモードでは、モードメモリの入/切の設定に関わらず、フラッシュは常に“”(発光禁止)に設定されます。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」(196ページ)をご覧ください。

1. RECモードまたはPLAYモードで【MENU】を押します。
2. “設定”タブ→“リセット”を選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“リセット”を選び、【SET】を押します。
 - リセットしない場合は“キャンセル”を選びます。



【EX 𠄎】を使って素早く設定する(EXメニューによるショートカット)

【EX 𠄎】を押して表示されるEXメニュー画面から、「ホワイトバランス」「ISO感度」「測光方式」「AFエリア」の4つの項目を素早く設定することができます。

1. RECモードで【EX 𠄎】を押します。

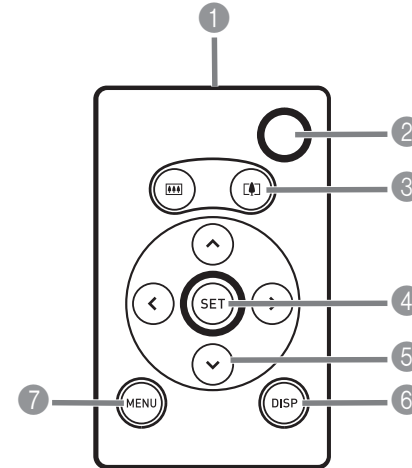


2. 【◀】【▶】で変更したい項目を選択し、【▲】【▼】で設定したい内容を次々と選んでいきます。
3. 設定後に【SET】を押すと、EXメニュー画面から抜けません。
 - 設定項目／設定内容については、下記のページをご覧ください。
 - ホワイトバランスを変える(70ページ)
 - ISO感度を変える(101ページ)
 - 測光方式を変える(103ページ)
 - オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える(64ページ)

- 参考** •【EX 】を押し続けた状態で【◀】【▶】により変更したい項目を選択し、【▲】【▼】で設定したい内容を選んだ後に【EX 】から指を離しても、同じように設定することができます。

カードリモコンを使って撮影する

本機は付属のカードリモコン(WR-4C)を使って撮影することができます。シャッター速度が遅い場合や望遠での撮影で三脚を併用することで、手ぶれを防ぐことができます。

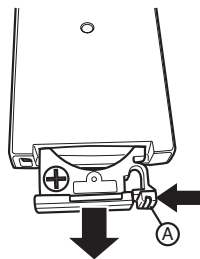


- ① リモコン発光部
- ② シャッターボタン
- ③ ズームボタン
- ④ SETボタン
- ⑤ コントロールボタン(▲▼◀▶)
- ⑥ DISPボタン
- ⑦ MENUボタン

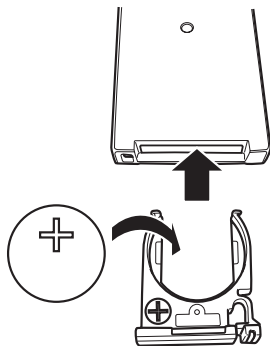
電池を入れる

リモコンをご使用になる前に、リモコンにリチウム電池(CR2025)を入れてください。

1. ①を矢印の方向に押しながら、電池ホルダーをリモコンから抜き取ります。



2. 電池の表面を乾いた布でよく拭いてから、(+)側を上にして電池ホルダーに取り付けます。





3. 電池ホルダーをリモコンに差し込みます。

- 重要!**
- 本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤って電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子さまにご注意願います。
 - ボタン電池は小さなお子さまの手の届かない所へ置いてください。万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。



カードリモコンを使う前に


カードリモコンを使う前に、必ず下記の準備をしてください。

1. RECモードにして、【】を押してリモコン動作オンを選びます。

- リモコン動作オンになると、【液晶モニター】に“”または“”が表示されません。



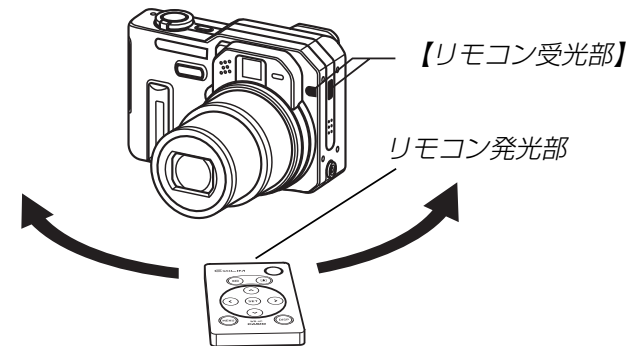
-  : リモコンを操作すると、すぐにカメラが動作します。
-  : リモコンを操作すると、カメラが“セルフタイマー2秒”を選択したときと同じ動作をします。

- 重要!**
- リモコンを使って自分撮りをするときは“”に設定すると、リモコンを構えている姿が写らずに便利です。
 - PLAYモード、ボイスレコードモードでは、セルフタイマーの設定に関係なく、常にリモコンが使えます(カメラ側が信号を受け付けます)。

カードリモコンを使う

リモコン発光部をカメラの【リモコン受光部】に向けて操作してください。カードリモコンのボタン操作は、カメラ本体でのボタン操作と同じとなります。

- カードリモコンが使用できる距離は、カメラ正面から約5m、カメラ正面の右横から約1mです。



- 重要!**
- 次のような状態では、カードリモコンが使用できる距離が短くなります。
 - カメラの【リモコン受光部】に対して、斜めに使用しているとき
 - カメラ本体に強い光が当たっているとき
 - カードリモコンの電池が消耗しているとき

- カードリモコンのシャッターボタンでは、カメラ本体の【シャッター】半押し操作はできません。シャッターボタンを押すと、ピントを合わせた後、すぐに撮影します。
- カードリモコンを使用して通常連写を行う場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。シャッターボタンから指を離すと連写は終了します。
- カードリモコンを使用して高速連写を行う場合は、連写(最大5枚)が終了するまで、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。途中で連写を止めたいときは、シャッターボタンから指を離してください。
- リモコン信号の受信状態が悪くなったり、リモコンの電池が消耗してくると、連写やオートブラケティング撮影が途中で終了してしまうことがあります。
- カードリモコンを使用してバルブ撮影を行う場合は、リモコンのシャッターボタンを1回押すと露光を開始し、もう1回押すと露光を終了します(カメラ本体でバルブ撮影を行う場合は【シャッター】を押し続けている間、露光を続けます)。カメラ本体とリモコンでは操作の仕方が異なりますので、ご注意ください。
- コンバージョンレンズ装着時は、カメラ前面の【リモコン受光部】をコンバージョンレンズが覆ってしまうので、リモコンをカメラ側面の【リモコン受光部】に向けて操作してください(117ページ)。

外部フラッシュを接続して撮影する

本機は市販の外部フラッシュを接続することができます。内蔵フラッシュより大きなガイドナンバー(明るい)のフラッシュを使用することにより、内蔵フラッシュの届かない遠くの被写体を照らすことができます。

内蔵フラッシュのガイドナンバー：8(ISO 80/m)

使用できる外部フラッシュの条件

下記の条件を備えた市販のフラッシュを使用することができます。

- － 調光機能(AUTO機能)付き。
- － 閃光時間が1/1000秒より短いもの。
- － 照射角度が35mmフィルム換算で焦点距離33mmのレンズをカバーするもの(ワイドコンバーター非装着時)。

- 重要!**
- 閃光時間の長いものはフラッシュの性能が十分に発揮できない場合があります(リングフラッシュなど)。
 - フラッシュによっては、デジタルカメラ本体と同等の絞り値とISO感度に設定できない場合があります。この場合は設定値に近い値に設定し、外部フラッシュやデジタルカメラの絞りを調整し、ためし撮りをして、適正な明るさになるように設定値を選択してください。

外部フラッシュを使う前に

外部フラッシュを使う前に、必ず下記の準備をしてください。

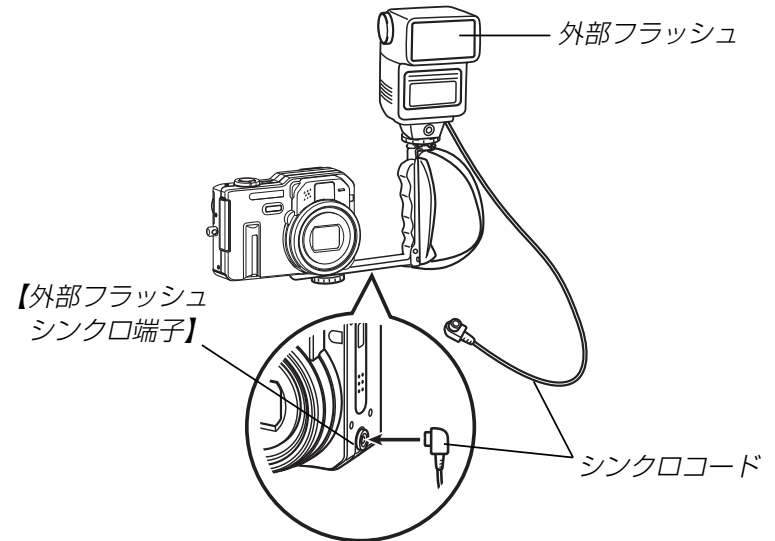
1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“外部フラッシュ”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押します。
入：外部フラッシュを発光させることができます。
切：外部フラッシュは発光しません。

- 重要!**
- 【液晶モニター】に表示される画像の明るさと実際に撮影される画像の明るさは異なりますので、事前に外部フラッシュやデジタルカメラの設定値を確認してから撮影するようにしてください。
 - 外部フラッシュの入/切を切り替えると、外部フラッシュが発光する/しないだけでなく、カメラ内部の状態も変化しますので、外部フラッシュを使わないときは、必ず外部フラッシュを“切”に設定してください。

外部フラッシュを使う

- 重要!**
- 外部フラッシュの取り付け、取りはずしの際には、必ず外部フラッシュの電源とデジタルカメラの電源は切ってください。フラッシュが誤発光することがあります。

1. シンクロコードを【外部フラッシュシンクロ端子】に接続します。



- デジタルカメラに外部フラッシュを取り付ける場合は、市販の三脚穴に固定可能なグリップ付きブラケットをお買い求めください。


2. カメラの電源を入れ、カメラを次のように設定します。

露出モード：Mモード(マニュアル露出)

シャッター速度は1/60秒程度、絞りは用途に合わせて設定してください。

- フラッシュの光が届かない部分をできるだけ明るく撮影したい場合は、デジタルカメラの絞りを開放(F2.8)に設定してください。


ホワイトバランス： (太陽光)

フラッシュモード： (発光禁止)

3. 外部フラッシュの電源を入れ、外部フラッシュ側の設定を、デジタルカメラで設定した絞り(F)値(72、74ページ)とデジタルカメラの感度(ISO80相当)に近い値に合わせます。

- 外部フラッシュのオート絞り(F)値やISO感度を本機の条件に近い設定をしても、撮影条件によっては適正な露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオート絞り(F)値かISO感度の値などを調整してください。または、デジタルカメラの絞りを調整してください。

外部フラッシュ使用時のご注意

- 外部フラッシュは【外部フラッシュシンクロ端子】に接続していると強制的に発光します。フラッシュを使用しないときは、シンクロコードを本機からはずすか、外部フラッシュの電源スイッチを切ってください。
- 外部フラッシュの発光量は外部フラッシュ側で決定されます。デジタルカメラでは調整できません。撮影後【液晶モニター】で確認した露出が思わしくない場合は、外部フラッシュやデジタルカメラの設定値を調節して、撮影し直してください。
- 近距離での撮影では露出がオーバーになる場合があります。外部フラッシュの絞りやISO感度を調整するか、デジタルカメラの絞りやISO感度を調整するか、または内蔵フラッシュで撮影してください。
- フラッシュモードが (発光禁止)以外に設定されているときは内蔵フラッシュも発光します。
- デジタルカメラの表示している絞り(F)値は、光学ズームがワイド端(1倍)のときの値です。望遠側にするとレンズは多少暗くなります。光学ズーム使用時は必要に応じて外部フラッシュの絞りやISO感度を調整するか、デジタルカメラの絞りを調整してください。
- ズームフラッシュを使用する場合、フラッシュの照射角度は焦点距離33mm以下に設定することをおすすめします。

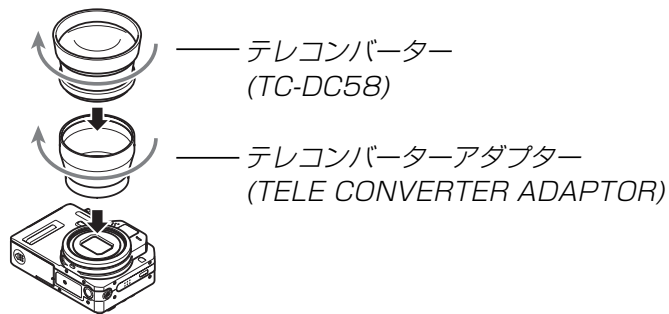
コンバージョンレンズ/クローズアップレンズやフィルターを取り付けて撮影する

本機は別売のコンバージョンレンズアダプター(LU-60A)にセットされているテレコンバーターアダプターまたはワイドコンバーターアダプターを取り付けることにより、推奨のコンバージョンレンズ/クローズアップレンズや市販のフィルターを使用して撮影することができます。

- 推奨のコンバージョンレンズ/クローズアップレンズは、次のキヤノン(株)製の製品のみとなります。

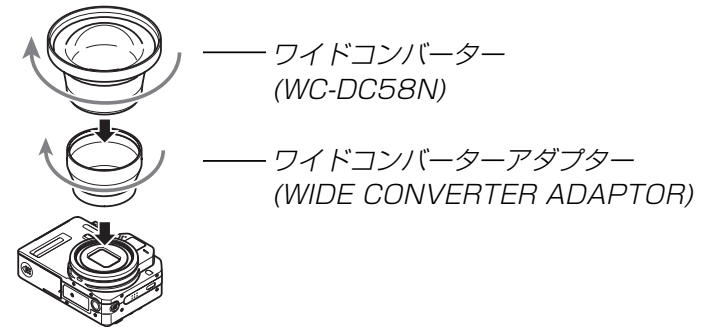
● 望遠撮影用

焦点距離：デジタルカメラ本体の焦点距離の1.5倍
 テレコンバーター前面から被写体までの距離が1m~∞の撮影が可能(ズームをテレ側にして使用した場合)。
 キヤノン(株)製テレコンバーター TC-DC58



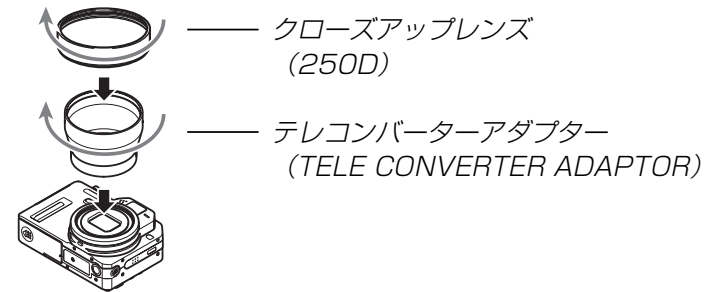
● 広角撮影用

焦点距離：デジタルカメラ本体の焦点距離の0.7倍
 キヤノン(株)製ワイドコンバーター WC-DC58N



● マクロ撮影用

マクロモードにて、クローズアップレンズ前面から被写体までの距離が6cm~25.1cmの撮影が可能(ズームをワイド端にして使用した場合)。
 キヤノン(株)製クローズアップレンズ 250D(58mm)

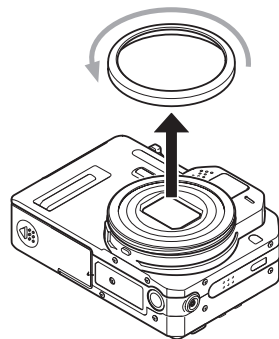


コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを取り付ける

コンバージョンレンズを取り付けることにより、さらなる望遠撮影や広角撮影ができます。また、クローズアップレンズを取り付けることにより、より近接のマクロ撮影ができます。

1. カメラの電源を切り、カメラ本体のレンズ周辺部に取り付けられているレンズリングを取りはずします。

- レンズリングがうまく取りはずせないときは、数本の指で軽くつかんで回してみてください(2本の指で強くつかんで回そうとすると、リングとカメラ本体のネジ部が引っ掛かり、うまく回らないことがあります)。




2. カメラレンズを上に向け、レンズ部を手で固定した状態で、別売のテレコンバーターアダプターまたはワイドコンバーターアダプターのいずれかを取り付けます。



3. コンバージョンレンズまたはクローズアップレンズを取り付けます。

重要! • コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを取り付けると、本機の【位相差センサー】がケラレ(光線がさえぎられることによる黒い影)の影響で正しく動作しない場合がありますので、撮影する前に「オートフォーカス方式(AF方式)を変える」(102ページ)を参照して、オートフォーカス方式(AF方式)を必ず“コントラスト”に設定してください。

参考 • カメラの電源が入った状態で、レンズリングの取り付け／取りはずしを行うと、自動的にカメラの電源が切れません。

■ コンバージョンレンズ／クローズアップレンズ使用時のご注意

- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを使用するときは、必ず指定のテレコンバーターアダプターまたはワイドコンバーターアダプターを使用してください。
- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを使用するときは、レンズに付属の取扱説明書もあわせてお読みください。
- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを取り付けてもファインダー内の画角は変わりませんので、撮影するときは【液晶モニター】をお使いください。また、【ファインダー】を使うとファインダー内の一部にケラレ(光線がさえぎられることによる黒い影)が生じます。
- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを取り付けると、レンズのケラレの影響で、内蔵フラッシュ光が被写体に正しく到達しない場合があります。
コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを使用する場合は、フラッシュモードを (発光禁止)にするか、外部フラッシュをご使用ください(54、114ページ)。
- テレコンバーターは、フォーカスモードを“オートフォーカス”にしてお使いください(62ページ)。
- テレコンバーターは光学ズームを広角側にして使用するとケラレが生じますので、望遠側でご使用ください(51ページ)。
- テレコンバーター使用時は手ぶれが発生しやすいので、必ず市販の三脚をご使用ください。

- ワイドコンバーターを取り付ける際は、レンズにキズが付くのを防ぐために、必ずカメラの電源を切り、カメラのレンズが本体に収納された状態で行ってください。
- ワイドコンバーターは、フォーカスモードを“オートフォーカス”または (マクロモード)にしてお使いください(62ページ)。
- ワイドコンバーターは性質上、画像に歪みを生じることがありますので、ご注意ください。
- クローズアップレンズは、必ずフォーカスモードを (マクロモード)にしてお使いください(62ページ)。他のフォーカスモードではピントが合いません。

■ 光学ズーム機能に関するご注意

- ワイドコンバーターを使用したときは、光学ズーム機能によりせり出したカメラ本体のレンズがワイドコンバーターに当たり故障の原因となるため、光学ズームは2倍までしかできません。

重要! • コンバージョンレンズを使用しない場合は、必ず付属のレンズリングをカメラ本体に取り付けてください。付属のレンズリングを取り付けないと、ワイドコンバーターを取り付けていない状態でも、光学ズームは2倍までしかできなくなります。
レンズリングがわずかでも緩んでいると、光学ズームは2倍までしかできなくなりますので、レンズリングを取り付ける場合はリングに緩みがないようにしっかりと締めてください。

フィルターを取り付ける

市販の口径φ58mmのフィルターを取り付けて撮影することができます。

- 重要!**
- フィルターを使用するときは、必ず指定のテレコンバーターアダプターを使用してください。テレコンバーターアダプターを使わないと、せり出したレンズがフィルターに当たり故障の原因となります。
 - フィルターを使用するときは、フィルターに付属の取扱説明書もあわせてお読みください。
 - フィルターによっては次のようなことがあります。ご確認のうえご購入ください。
 - 画面の周辺にケラレが生じる。
 - オートフォーカス、およびフラッシュの性能が十分に発揮できない。
 - 銀塩カメラと同様の効果が得られない。
 - フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
 - 市販のレンズフードを使用すると、画面の周辺にケラレが生じます。